

Pick Up! この一枚

第1回「大岡信賞」に 佐々木氏、巻上氏



(前列左から)受賞者の巻上氏と佐々木氏



津軽三味線奏者の
二代目高橋竹山氏の
演奏に合わせて詩を
朗読する佐々木氏



ヒカシューのメンバーと
演奏を披露する巻上氏

明治大学が朝日新聞社と共催で新設した「大岡信賞」の贈呈式が3月7日、駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催された。この賞は、明治大学法学部で約30年間教壇に立ち、多様な芸術領域に大きな足跡を残した詩人の大岡信氏をたたえるもので、第1回となる2019年度の受賞者は、詩人の佐々木幹郎氏とミュージシャンの巻上公一氏。

佐々木氏は、東日本大震災後の社会を見つめる詩集「鏡の上を走りながら」の出版、オペラ「紫苑物語」の台本作成、近年の充実した批評活動などが、またバンド「ヒカシュー」のリーダー兼ボーカリストの巻上氏は、40年にわたり発表してきた楽曲の歌詞をまとめた詩集「至高の妄想」の出版など、言葉の力や広がりを与え続けてきたことが受賞理由となった。